

将軍、聖地日光へ行く

徳川将軍家による東照宮参拜と宿泊地・宇都宮城

江戸時代、歴代の将軍たちが日光東照宮へ参拝した日光社参。その多くが、徳川家康の命日に合わせて行われました。宇都宮城は社参時における将軍の宿泊地として、毎回必ず利用されてきました。幕府の威信を見せた一大プロジェクトとしての日光社参における宇都宮の地は、聖地日光を目前にした将軍たちが気を引き締める場所でもあったと言えるでしょう。



「日光道中絵図」に描かれた宇都宮宿。社参時の将軍家の宿泊地であることを示す金の印が付けられている。栃木県立博物館蔵。

日光社参とは

今年は、江戸幕府を開いた徳川家康が亡くなって400年という節目の年。江戸時代、徳川将軍家が家康の命日（旧暦4月17日、新暦6月1日）に合わせて、家康が東照大権現として祀られている日光東照宮と三代将軍家光が祀られている大猷院へ参拝することを「日光社参」と呼ばれていました。

日光社参は、家康が亡くなった翌元和2（1616）年、家康の子で二代将軍秀忠が東照大権現を駿河国（現在の静岡県東部）久能山から日光山へ移して東照社（後の東照宮）が建立された時から始まりました。以後、秀忠は二回（将軍職隠居後を含む）、三代家光（世嗣時代を含めて九回）、四代家綱（世嗣時代を含めて二回）、八代吉宗、十代家治、そして十二代家慶（それぞれ一回ずつ）までの間に十七回



NIKKO SHASAN Route Map

寛永13(1636)年
徳川家光の社参行程

日光社参の日程と規模

さて、日光社参はどのような日程で行われていたのでしょうか。たとえば、寛永13（1636）年の家光による日光社参を見てみますと、旧暦4月13日（新暦5月17日、以後、旧・新暦の表記は略す）に江戸城を出立。日光御成道を通じて、1日目は岩槻城（埼玉県さいたま市岩槻区）へ宿泊。2日目は幸手宿で日光道中と合流し、古河城（茨城県古

河市）で宿泊。3日目も日光道中を通り、宇都宮城で宿泊。4日目となる4月16日（5月20日）に今市宿の如来寺に設営した御殿で宿泊、翌17日（21日）に日光へ到着しました。帰路は4月19日（5月23日）に日光を出発。その日は今市宿の如来寺にある御殿で宿泊し、翌20日（24日）に出立。日光道中壬生（通を通じて、この日は壬生城で宿泊。翌21日（25日）は、日光道中の小山宿手前で合流。行きと同じ道を通じて岩槻城で宿泊。そして4月22日（5月26日）に江戸城へと戻りました。

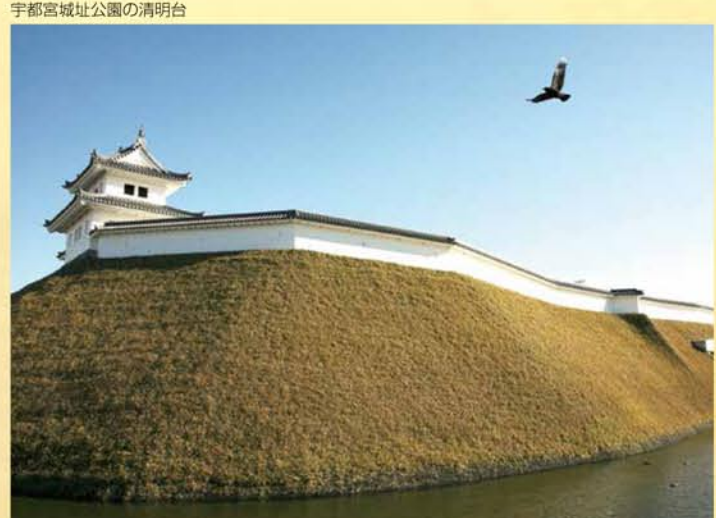
こちらのルートは毎回使っていたわけではなく、帰路の日光道中壬生通を通るルートは四

代家綱までで、以後は往復には日光御成道と日光道中が利用されました。また、社参時は休みなく歩いていたのではなく、沿道のお寺が休憩所として利用されました。栃木県内では、四代家綱以降の社参時には、慈眼寺（下野市）と龍蔵寺（日光市）が必ず利用されていました。

ところで、日光社参の規模はどれくらいだったのでしょうか。日光社参では、大老・老中をはじめとする主な幕閣たちや大名や旗本、御家人たち総勢数十万人ともいわれる武家たちを動員し、将軍をサポートする行列が組まれました。その規模たるや、行列の先頭が日光山に到着しても最後尾がまだ江戸城にいる、という俗説を生むほどでした。武家たちだけでなく、輸送に必要な人馬や各地での警備、犯罪人に対する恩赦の実施など、全国を巻き込んだの国家的イベントでした。

将軍の宿泊地だった宇都宮城

日光社参では、岩槻城、古河城とともに、宇都宮城が必ず将軍家の宿泊地として利用されています。江戸時代、宇都宮城のある宇都宮宿は、聖地日光へと至る日光道中と東北地方へと続く奥州道中の分岐点がある交通の要衝地。日光東照宮と奥州への押さえとして、北関東の要地として位置づけられていました。そのため、宇都宮城主は代々の有力譜代大名が治めて



宇都宮城址公園の清明台

日光社参で将軍が宿泊したのは、本丸に建てられた御成御殿。「宇都宮城本丸将軍家御泊城ノ節建物ノ図」（宇都宮市教育委員会蔵）という絵図を見ますと、御殿を中心に北西隅の「清明台」をはじめ、五棟のやぐら櫓などが細かく記録されています。八代吉宗以降の社参では、二の丸御殿の南端に増設された御座所（将軍や大名などの居室）に宿泊しました。ちなみに、本丸に建てられた御成御殿は、吉宗の社参が終わると取り壊されました。

現在、日光社参をしのばせる文化遺産は、市内ではほとんど見ることができません。けれども、幕府の権威を広く知らしめたといえる日光社参で利用した道（日光道中）は姿形を変えながらも、今でも人びとにとってかけがえのない交通網として利用されています。

（参考文献）
①日光東照宮と将軍社参（図録）
（徳川記念財団、2011年）
②宇都宮城本丸御殿と徳川将軍家（図録）
（壬生町立歴史民俗資料館、2012年）
③大石学「徳川将軍家と日光社参」
（日光社参ウォーク情報紙No.11）
下野新聞社、2015年7月28日付

NIKKO SHASAN Schedule

徳川将軍家による日光社参の主な日程

回数	参詣者	社参年	江戸城 出立日	宇都宮着	日光着	日光 出立日	江戸城 到着日
1	2代将軍 秀忠	元和3(1617)年	4月12日	4月15日	4月16日	4月20日	4月22日
★		元和5(1619)年	10月13日	10月15日	10月16日	10月18日	10月21日
2	大納言 家光	元和8(1622)年	4月12日	4月14日	4月16日	4月19日	4月21日
3		元和9(1623)年	4月13日	不明	4月18日	4月19日	4月22日
★	3代将軍 家光	寛永2(1625)年	7月13日	不明	不明	不明	7月20日
4		寛永5(1628)年	4月22日	4月24日	4月25日	4月28日	5月1日
5	大御所 秀忠	寛永5(1628)年	4月13日	4月15日	4月16日	不明	4月21日
6	3代将軍 家光	寛永6(1629)年	4月13日	4月15日	4月16日	4月18日	4月21日
7		寛永9(1632)年	4月13日	4月15日	4月16日 (今市宿)	4月19日 (今市宿)	4月21日
8		寛永11(1634)年	9月13日	9月15日	9月16日	9月17日	9月20日
9		寛永13(1636)年	4月13日	4月15日	4月16日	4月19日	4月22日
10		寛永17(1640)年	4月13日	4月15日	4月16日	4月19日	4月22日
11		寛永19(1642)年	4月13日	4月15日	4月16日	4月20日	4月23日
12		慶安元(1648)年	4月13日	4月15日	4月16日	4月19日	4月22日
13	大納言 家綱	慶安2(1649)年	4月10日	4月15日	4月17日	4月18日	4月23日
14	4代将軍 家綱	寛文3(1663)年	4月13日	4月15日	4月16日	4月21日	4月24日
15	8代将軍 吉宗	享保13(1728)年	4月13日	4月15日	4月16日	4月18日	4月21日
16	10代将軍 家治	安永5(1776)年	4月13日	4月15日	4月16日	4月18日	4月21日
17	12代将軍 家慶	天保14(1843)年	4月13日	4月15日	4月16日	4月18日	4月21日

※「日光東照宮と将軍社参」および「壬生城本丸御殿と徳川将軍家」掲載の日光社参一覧表を元に作成
※日程は推定 ※★は社参の実地が確定できないことから、参考として掲載した